

情勢報告

この1冊で、今日からあなたも天敵名人！？



32P、オールカラー。
表紙は阪神タイガースにちなんで、灰色の縞模様。

天敵や防除資材の使い方を、分かりやすく解説したマニュアル本『天敵利用虎の巻』を改訂した。旧虎の巻は、天敵の利用法を中心とした内容であったが、今回の改訂では、様々な防除資材の利用法、天敵利用のコスト評価なども掲載。ページ数も前回の倍となり、より幅広く奥深い内容となった。

今後は、JA土佐あきや県環境農業課を通じて、管内の全施設野菜農家や関係機関に配布する予定である。この冊子が、『環境に優しい農業』への取り組みに、役立つように願っている。

家畜ふん堆肥の利用に弾み



熊本県の事例報告を熱心に聞いている参加者

家畜ふん堆肥の利用促進のため、3月31日に畜産農家や関係機関からなる東部地域畜産堆肥利活用推進委員会を開催した。今回は畜産堆肥を使用している2名の園芸農家も参加。堆肥使用の状況や利用拡大について意見や提案を行ってもらった。

農業振興センターからは、熊本県の事例報告や堆肥利用のパンフレットの配布、来作の試験実証圃の計画について説明を行った。

意見交換では、園芸農家が畜産農家の堆肥製造場所の見学や堆肥のコンクールの実施、実証試験を継続・拡大して取り組みを進めるなど積極的な話し合いが行われた。来年度も推進委員会を開催し、家畜ふん堆肥利活用の取り組みを継続する。

一年間の経営結果を見てみましょう



「売上がいくらになれば経営が成り立つか？」
「来年の目標は？」

3月末、JA土佐あき安芸市青色申告会を対象に、一年間のパソコン簿記の入力結果を自分で分析・診断する「応用講習会」を開催した。赤野・穴内・中央支部に分かれて計4回開催し、57名の農家が参加した。農業経営と生活費の関係や、損益計算書・貸借対照表の見方、損益分岐点分析の使い方などの説明を行った。パソコン簿記では簡単に分析結果をグラフ表示できるので、参加した農家は興味をもった様子だった。

「家に帰って家族みんなに見せてあげてね。」「今日の結果を基に何か一つ来年の目標を立ててください。」と提案して、延べ53回開催・778名が参加したH17年度の活動を締めくくった。

18年度作JA土佐あき柚子スタート！



今年は表年！！？

発芽前の4月6日、JA土佐あき柚子部東川支部の総会が開催された。会議は、17年度の活動報告と18年度の事業計画が検討された。重要課題として「老朽化した搾汁工場改修について」の事業実施計画が説明された。消費者の食品に対する安全、安心の認識が強く、よりクリーンな環境での搾汁を望まれていることなどから事業計画は承認された。また、7日に畑山地区でもこの件についての臨時総会が開かれ承認された。その他では、5月29日より施行されるポジティブリスト制度の啓蒙を図った。

露地シシトウ・オクラ栽培講習会の開催



室戸市吉良川地区の露地シシトウ・オクラの栽培講習会で「ポジティブリスト制度について」説明を行いました。露地シシトウ・オクラは、畑のまわりを水稻に囲まれた圃場で栽培する場面が多く、隣接する農家と連携して対応してもらうように説明した。シシトウ・オクラ栽培農家からは、飯米農家への周知とナイヤガラ（水稻の農薬散布方法）使用の飛散防止に懸念が出された。今後とも機会あるごとに、JAと連携して周知徹底を図っていきたい。

今後の普及活動の主な動き（5月～）

安芸農業振興センター農業改良普及課
（連絡先：0887-34-0138）

普及活動計画・予定

時 期	タ イ ト ル	内 容	備 考
5 月 上 旬	家畜ふん堆肥のサンプル展示	管内の園芸集出荷場に、地域内で製造される家畜ふん堆肥のサンプルを展示。園芸農家に実物を見て貰い、土づくりへの意識を高める。	